

---

# 本棚

熊田明希

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

本棚

### 【Nコード】

N5591T

### 【作者名】

熊田明希

### 【あらすじ】

三分で読めるショートストーリー。何の意味も無いショートストーリーではないですが、なるべく客観的かつ何も起こらないことを意識して書きました。

冷蔵庫の中からAsahiのスーパードライを取り出してプシツ、とプルトップを開けた。カコ、と鳴らしてそれを倒すと、冷気を立てるほどに冷えたそれを飲む。

六畳一間は今日も何も無い。

まず、洋間にも関わらずカーペットが無い。それならまだいいが、ソファが無い。狭いからだ。更にテーブルも無い。

箆笥やテレビなどあるうはずもなく、本棚も無い。では何が有るのかと言うと、冷蔵庫と衣装ケース。たった二つだけだ。

洗濯機を置かずともコインランドリーがある。料理などせずともコンビニがある。テレビなど見なくても死にはしない。本は読まない。

一切の物を排除して何が必要だったか考えたとき、服と冷蔵庫があれば生きていけることに男は気付いた。

当然、風呂は平日に近くの銭湯に通うのでガス代はかからない。水道代など基本料金しか払ったことが無いが、正直ライフラインでさえなければいつ止めてもいいと思っっている。

電気代くらいしか光熱費は払っていないが、それとて微々たるものだ。なんせ部屋の電灯と冷蔵庫以外に電気を使うものはない。

極端な話をすれば冷蔵庫だって本当は要らない。買ってきているビールを冷やすために電源を入れてはいるが、普段は冷凍室に冷凍食品が入っただけで、冷蔵室は空だった。冷凍食品とて、近年はコンビニ弁当で済ますようになって海老ピラフの袋が虚しく一つだけ入っただけだ。

男は金だけはあった。預金通帳の額は既に九桁も目前で、なかなかの大金だ。地元の大学を出てから上京し、同年代の人がどんどん結婚していく中でも自分だけは脇目も振らず働き続けて既に四十も近い。

そして部下の数名から自分が草食呼ばわりされていることも知っている。昔から真面目一辺倒な自分を可愛がってくれている上司でさえ、最近は誰かいい相手を紹介しようかと要らぬお節介を焼いてくる。

自分は一人で自分の人生を満喫したかった。誰にも縛られず、自由な人生を歩みたかった。

七十を過ぎた両親は早く結婚しろとうるさく言ってくるが、近年の離婚率を鑑みると結婚なぞ到底良いものに思えなかった。

だが、余りあるこの預金はどうしようかと悩む。

今までただ働いてきたが、少し彩りに欠ける人生だったのではないだろうか。

男は考えた。今さら結婚したいと思えるほど世俗的な欲求は四十を手にした体に残っておらず、かといって盆栽などじじ臭い趣味に走る気にもなれなかった。

では何がいいだろうかと悩んだ末に、もう一度大学生活を堪能してみてもどうかと思った。

缶ビールを飲み干した男は流しの下のごみ箱に捨てて、そのままフローリングの上に寝転がった。

翌日には会社に辞表を提出し、男は退職金を入学費用に充てるべく預金をすると、書店に寄って問題集を買ってきた。二十年振りに握る鉛筆は硬く感じられ、身の引き締まる思いで机と本棚を買った。男の六畳一間に家財が増えた。冷蔵庫と衣装ケースしかなかった部屋には新しく机と問題集と本棚が置かれ、部屋に賑やかさが少し生まれた。

男は国語に三時間、英語に三時間、昼飯を挟んで数学に三時間、社会に三時間をかけるようになった。

国語の小説文を読むでは、その小説が気になり実際に書店で買ってみたり、英語を学び始めて海外の児童文学に興味を持つようになった。

男の本棚には井上靖や夏目漱石などが並ぶようになり、その横にはA4版の英語の絵本が増え始めた。

昼飯もわざわざコンビニまで買いに行くのが億劫になり、スーパーでキャベツと玉ねぎと豚肉と三食焼きそばを買って一日三食焼きそばを作るようになった。それで朝に買い物をする習慣ができると、男は料理をする楽しさを覚えて料理本を数冊買うようになった。

社会を勉強してからは特に本棚にある種の推理小説が増えた。西本京太郎や高橋克彦の小説がまさしくそうだった。

数学を学び始めてからは小説よりもパズル問題集や懸賞のクロスワードを買うようにもなった。

こうして本棚は次々にそのジャンルも、冊数も増えた。

半年後に実際に大学受験をする時に、男は思った。

この半年はとても充実していた、と。

なぜか考えたが、それはきつと目標に向かって邁進していたからだろうと男は思った。

男の部屋の本棚は、今や有って当然なのだ。

(後書き)

単なる息抜きに十分程度で書いたSSです。たぶん特に意味は無いと思いますが、風刺的な面があるかなと自分で読み返したときに少しだけ思いました。そんな意図はありませんが(汗

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5591t/>

---

本棚

2011年10月8日23時05分発行